

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

大阪大学 文・外国語学部

前期日程

科目

世界史

総括

試験時間	90分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	100点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

例年どおり論述問題主体の出題で、昨年に比べ総字数は180字増え、970字であった。しかし、出題内容は教科書主体の記述しやすい問題が増えたために、昨年に比べると易しくなった。

〈特記事項・トピックス〉

昨年は出題されなかったが、大阪大学の頻出テーマであるユーラシア大陸における諸民族・文明の交流に関する問題が出題された。

〈合格への学習対策〉

総論でも述べたように、教科書レベルながら「書かせる」問題が数多く出題された。これに対応するためには、ただ知識を覚えるだけでなく日頃から論述の練習を繰り返すことが肝心である。また指定の字数が限られているため、問題文を厳密に読み、解答に必要な知識を絞り込んで表現する技術を身につけておく必要がある。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
(I)	記述・論述 (180・40・80字程度)	中国における経済的中心の移動	政治のみならず、経済的な知識をきちんと理解しているかが鍵。	標準
		金代の華北における宗教事情	仏教などの全真教以外の宗教にもふれたい。	標準
		トルコ人移動後の中央アジアの言語と宗教	変化前の状況についてきちんと説明したい。	やや難
(II)	論述 (300字程度)	第二次世界大戦直後の冷戦の進行	冷戦初期についての基本的知識があれば十分に解答可能である。	標準
(III)	論述 (120・250字程度)	14世紀ユーラシア各地の混乱について	時代に則し、諸地域に注意をはらうことが大切。	標準
		17世紀ヨーロッパ・アジアの混乱や衰退について	六つの指定語句を国ごとに区別し、17世紀でおこった出来事と結びつけるのがポイント。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。